

みちしるべ

日本福音ルーテル教会
九州教区女性会

発行代表者 岩切 旻世

編集者 財津 悠子

印刷所 ヤマダスピード製版

主題聖句

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」ローマの信徒への手紙 12章15節

相田みつをさんの詩に、「つま
ずいたおかげで」という作品があ
ります。

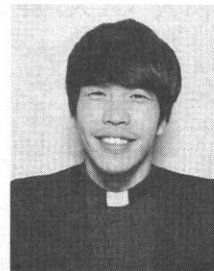
『つまずいたりころんだりしたお
かげで／物事を深く考えるようにな
りました。

過ちや失敗をくり返したおかげで／
少しずつだが人のやる事を暖かい
眼で見られるようになりました。

何回も追い詰められたおかげで／人
間としての自分の弱さとだらしな
さを／いやというほど知りました。

騙されたり裏切られたりしたおかげ
で／馬鹿正直で親切な人間の暖
かさも知りました。

そして 身近な人の死に逢うたび
に／人の命のはかなさと／今ここ
に／生きていくことの尊さを／骨
身にしみて味わいました。』



復活の十字架

小倉・直方 教会牧師

永吉 穂高

この詩には、人が生きる中で
出会った苦しきや辛い思い出来
事を通して与えられた、貴い学
びについて書かれています。遠
ざけたいと思うような苦難で
あつても、それが決して無駄に
はならず、むしろ、後の歩みを支
える力となったというのです。

与えられた一つひとつの出来事
を、自分に与えられた分の恵み
として引き受ける。そこに、これ
ほどまでの豊かさがあることを
私たちは知らされず。

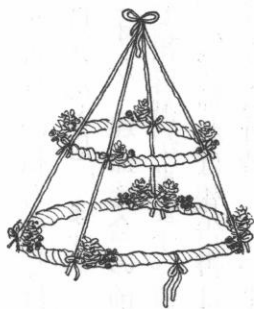
私たちは、生きる場所も、家族
も、自分自身をも選ぶ間もなく、
気づいたときには既に命が与え
られ、生かされていきました。個々
に与えられた弱さや強さ、特技
やハンディキャップ、悔い改め
や信仰の証し、すべては神から

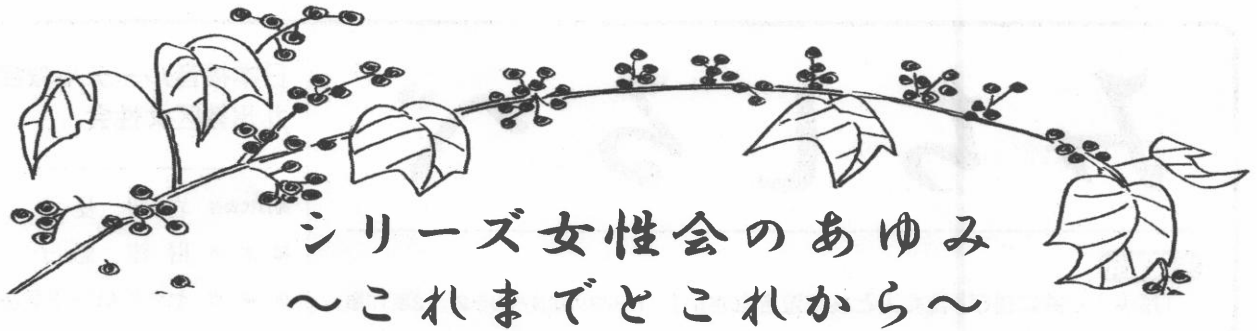
の賜物であり、これらは私たち
がそれぞれに負うべき十字架で
あるのです。

しかし、ひとたび主の十字架
の元に降ろした苦勞は、再び主
と共に担う時には主よりの賜物
とされるのです。

「わたしについて来たい者は、自
分を捨て、日々、自分の十字架を
背負って、わたしに従いなさい」
(ルカ九章二十三節)

主イエスが背負われた十字架
は、受難に終わるものではなく
あります。キリストとして復活に
至る十字架でありました。マル
チン・ルターは改革した教会のシ
ンボルとして、キリストがも
はや架かつたままではない十字架
を掲げました。それは、私たちが
主の復活を証しする教会となる
ためです。





シリーズ女性会のあゆみ ～これまでとこれから～



これまでのあゆみ

女性会と私

八代教会 寺田 幸代

婦人会についてずっと以前の事、子育て中の事もあり三代中頃でしょうか。一九六七年度教会総会記録は会長名だけあります。二年後には報告がでて

います。長尾先生、ベハネン先生がいらして教会、宣教師館、信徒宅で集会がありました。聖書の勉強の後、当時は珍しかったシニークリームの作り方を習って感激した思い出があります。会堂が出来たばかりで長椅子の座布団、雑布作り、クリスマスのお食事作り、バザーもしました。私はまだひよこでした。教会創立時のメンバーが五人位居られました。クリスマスに聖劇もやっています。地区集会にも三人位出席しました。この頃からCCWAフィリピンの子ども二人が学校に行ける様に、婦人グループ、壮年会も巻き込み支援を始め、今でもカードを含め

年三回の文通をしています。

昨年暮れから会員を通して教会外にも拡がりました。出来たらこの方々が礼拝にもと祈っています。

健軍教会と合同集会の時、第二次世界大戦中の中国での蛮行の写真(多分南京事件)には皆衝撃を受けました。従軍慰安婦問題についても韓国の女性の講演を聞きました。将校として従軍された八代教会員からお話を聞いたことがあります。若い女性方に歴史の勉強を望みます。日本の特に第二次世界大戦は教科書でもほとんど教えていないと聞いています。世界中あらもこちらにも争いが絶えません。犠牲になるのは女性と子供です。女性会も高齢の方の召天で会員は先細り、青年会と一緒に集会をされる事は嬉しいです。沢山の方との交わりは、主にあつ

て喜び、早とちりの私も少しは成長させて貰えたと思います。

会計の事です。連盟総会の前に資料、後で報告書が来ます。資料に書き込んで帰れば報告書は不要と私は教区会計時に言いました。当時は多量消費廃棄の時代、本教会の総会後も同じでした。印刷代、テープ起しとお金と時間がもつたないと思います。変化があれば、会報やひびきで伝えれば良いし、参加した方が報告すればすむはず。報告書を読む人がどれだけいるでしょうか？

教会会計をした者から見ると、教区女性会の感謝献金はあいまいな感じがします。活動費に使うと聞きました。会費が十年以上も値上げはされていない様です。値上げも考えたらいかかでしょうか？そんなに人が増えるとは思えません。会費にしたら目途もはつきりします。連盟の会計報告一九九一年から九三年は、会費と指定献金、後は現在もある項目です。ご参考までに書きました。



これまでのあゆみ

主と共に

久留米教会 原 真理

久留米教会は、もうすぐ献堂百周年を迎えます。長い歩みの中で、先達者の姉妹方が積み上げてきた多くの働きがあります。しかし近年、働き手が減り、これまでと同じ働きをする事に困難を覚え始めました。主の前に立ち止まり、現状を皆で分かちあつて祈り、話し合い始めた時、女性会から離れていた方々が協力して下さるようになり、また今まで関心を持たれなかつた方が、女性会に心を向けて下さるようになりまして、

主は全ての必要をご存知で、満たして下さいる方であると改めて教えて頂きました。東日本大震災での、女性会ならではの細やかな心遣いや働きに参加できて大変感謝でした。これからも、常に主に祈って導いて頂きながら、感謝と喜びをもって新しい道を、主と共に一歩ずつ歩いていく女性会であります。女性会でありたいと願っております。



これまでのあゆみ

心地よい繋がりが

八幡教会 小林 涼子

教会に通い始めてもうすぐ五年。八幡教会婦人会は、教会の右も左もわからない私を暖かく受け入れてくださり、気負わず、無理せず、足りないところは補い合うとあった、大らかな雰囲気の中、時には苦笑いをする事もあります。メンバーとの何気ない会話の中から新たに学ぶことも多く、今ではすっかり教会生活に馴染むことができました。

こうした心地よい繋がりが、あるから、婦人会を支える

教会のひとりとして、この楽しい集まりを続けていくために今自分にできることは何なのかを考えることができ、気持ちよく活動ができるのだと思っています。

清掃活動や聖書研究など、規模の小さなこぢんまりとした活動ですが、今後もこの居心地のよさを大切にして、私を受け入れてくださったように、今度は私が教会を訪れる人々を迎えられたら、と思っています。